

（授業目標）

看護学の基本となる人間、環境、健康、看護の基本的概念を学び、看護の対象及び保健・医療・福祉における看護の既納・役割及び課題について理解する。

（実務経験を活かした実践的な授業）

総合病院における臨床経験を活かし、老年看護学を担当。高齢者の加齢に伴う変化と特徴をとらえ、対象のQOLの維持・向上に向けた援助について授業を行う。

回数	学 習 内 容
1	第1章 看護とは（講義、演習）
2	①看護の本質
3	②看護の役割と機能
回	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の考える「看護」（課題レポート） ・看護実践とは「事例」を通じて看護の展開をイメージする。（演習） ・エビデンスに基づく看護 ・看護理論とは
4	第2章 看護の対象の理解（講義、演習）
5	①人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味
回	<ul style="list-style-type: none"> ②生涯発達しつづける存在（発達理論）人間の理解 ③人間の「暮らし」の理解 ・「人間について考える」（課題レポート・発表）
6	第3章 国民の健康・生活の全体像の把握（講義、演習）
7	①健康のとらえ方
回	<ul style="list-style-type: none"> ②国民の健康状態 ③国民のライフサイクル ・「健康について考える、提案書の作成・発表」
8	第4章 看護の提供者
9	<ul style="list-style-type: none"> ・職業としての看護、
回	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職の資格と養成にかかわる制度
10	これからの看護の展望まとめ
回	

{評価方法}

筆記試験（80%） 課題レポート（20%）

{教科書・参考書}

- ・系統看護学講義 看護学概論 医学書院
- ・基礎看護学① 看護学概論 ナーシンググラフィカ

基礎看護学技術論Ⅰ (新)	単位数： 1単位	講義担当者：奥田ひとみ (実務経験有)
	時間数：30時間	
	配当時期：1年前期	

授業計画

看護におけるコミュニケーション、フィジカルアセスメントの意義と目的を学び、正確なフィジカルイグザミネーションを実践し、正常・異常の判断ができる能力を身につける。

(実務経験を活かした実践的な教育内容)

総合病院における数々の臨床経験を活かし、看護過程の基礎から各専門分野への展開について授業を行う。

学習内容

1回 コミュニケーションの技術

I コミュニケーションとは II 対人関係プロセスとしての看護

2回 III 看護におけるケアリングとコミュニケーション IV 看護理論とコミュニケーション

V 看護とコミュニケーション VI コミュニケーションのプロセスに影響する要因

3・4回 コミュニケーションの演習課題

5回 ヘルスアセスメント

I 看護におけるヘルスアセスメント

II フィジカルアセスメント

A 体表解剖とフィジカルアセスメント

B フィジカルアセスメントにおける基本技術

C 一般状態のアセスメント

6回 1. 体温のアセスメント 2. 脈拍のアセスメント

7回 3. 血圧のアセスメント

8回 4. 呼吸のアセスメント

9回 5. 意識状態のアセスメント

10回 D 一般状態のアセスメント ②身体測定 ※身体計測演習

11・12・13回

II フィジカルアセスメント ※バイタルサイン測定・聴診の演習

14回 E 系統的なフィジカルアセスメントの実際

I 体表面のアセスメント 2 呼吸器系のアセスメント

3 循環器系のアセスメント 4 腹部・消化器系のアセスメント

15回 まとめ

評価方法

筆記試験(100%)

教科書・参考書

基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (メヂカルフレンド社) 基礎・臨床看護技術 医学書院

視聴覚教材：DVD「フィジカルアセスメントの所見」「腹部・筋骨格・神経」

ビデオ「循環器系のアセスメント」「呼吸器のアセスメント」「気管内呼吸と肺理学療法」

基礎看護学技術論Ⅱ (新)	単位数： 1 単位 時 間 数：30 時間 配当時期：1 年後期	担当講師： 永田 祐子 先生 (実務経験有)
<p>(授業目標)</p> <p>日常生活援助に必要な基礎的な知識・技術・態度について学び安全・安楽・自立を基本とした看護技術を身に着ける。</p> <p>(実務経験を活かした実践的な授業)</p> <p>総合病院での臨床経験を活かし、日常生活援助の具体的な手法について授業する。</p>		
<p>(学習内容)</p> <p>1 回 環境を整える技術</p> <p style="padding-left: 2em;">Ⅰ 環境の諸要素とその調整</p> <p>2 回 Ⅱ 病室と病床の環境調整</p> <p>3 回 ベッドメイキング シーツ交換</p> <p>4 回 ベッドメイキング シーツ交換 環境整備 演習</p> <p>5 回 Ⅰ 食事・栄養摂取の意義とそのしくみと働き</p> <p>6 回 Ⅱ 食事・栄養摂取のアセスメント</p> <p style="padding-left: 2em;">Ⅲ 患者への食事の援助</p> <p>7 回 食事介助演習</p> <p>8 回 Ⅳ 経腸栄養 Ⅴ 中心静脈栄養</p> <p>9 回 排泄の援助技術</p> <p style="padding-left: 2em;">Ⅰ 排泄の意義とそのしくみと働き</p> <p style="padding-left: 2em;">Ⅱ 排泄のアセスメント</p> <p style="padding-left: 2em;">Ⅲ 排泄の援助 トイレ・ポータブルトイレ・差し込み便器・尿器・おむつ交換</p> <p>1 0 回 排泄援助演習</p> <p>1 1 回 Ⅳ 排便障害のある患者の援助と処置</p> <p>1 2 回 Ⅴ 排尿障害のある患者の援助と処置</p> <p>1 3 回 活動・休息の援助技術</p> <p style="padding-left: 2em;">Ⅰ 活動と休息</p> <p style="padding-left: 2em;">Ⅱ 活動のアセスメント</p> <p>1 4 回 Ⅲ 運動機能の維持・回復のための援助</p> <p style="padding-left: 2em;">Ⅳ 運動機能の低下した人の援助 体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移送</p> <p>1 5 回 Ⅴ 安静保持の援助 Ⅵ 睡眠の援助</p>		
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 (100%)</p>		
<p>教科書・参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体系 看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ メディカルフレンド社 ・基礎・臨床看護技術 医学書院 		

成人看護学総論(新)	単位数：1 単位 時間数：30 時間 配当時期：1 年後期	担当講師：奥田ひとみ (実務経験有)
<p>〈授業目標〉</p> <p>①成人期にある対象を身体的・精神的・社会的に捉え、健康上の問題について理解する。 ②健康の保持・増進や疾病の予防に関わる看護を学ぶ。 ③成人の健康障害時の健康レベルに応じた看護の特徴や方法を理解する。 ④すまいと医療・介護の場をつなぐ看護師の役割を理解する。</p> <p>(実務経験を活かした実践的な教育内容)</p> <p>総合病院における病棟勤務の臨床経験を活かし、成人看護学を担当、成人の特性と健康問題の特徴及び成人の特性に応じた看護の展開方法について授業を行う。</p>		
<p>学習内容</p> <p>1 回目 ライフサイクルの中での成人の位置づけ 2 回目 成人各期の発達段階と健康問題について 3 回目 成人の生活・健康 4 回目 成人における健康障害の特徴、予防とその対策 生活習慣に関する健康障害 5 回目 成人保健の動向 健康日本21 ヘルスプロモーション その他成人に関連する法律 6 回目 成人における健康障害の特徴、予防とその対策 職業に関する健康障害 生活のストレスに関する健康障害 7・8 回目 治療を必要とする対象(急性期) 9 回目 治療を必要とする対象(回復・リハビリテーション期) 10 回目 治療を必要とする対象(慢性期) 11 回目 治療を必要とする対象(終末期) 12 回目 大人の学習の特徴と看護 自己効力感 エンパワメントなど 13 回目 各病期における補足内容と理論家について 14 回目 がんと共生を促す看護技術(放射線療法) 15 回目 まとめ</p>		
<p>評価方法</p> <p>筆記試験(100%)</p>		
<p>教科書・参考書</p> <p>系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院</p>		

